

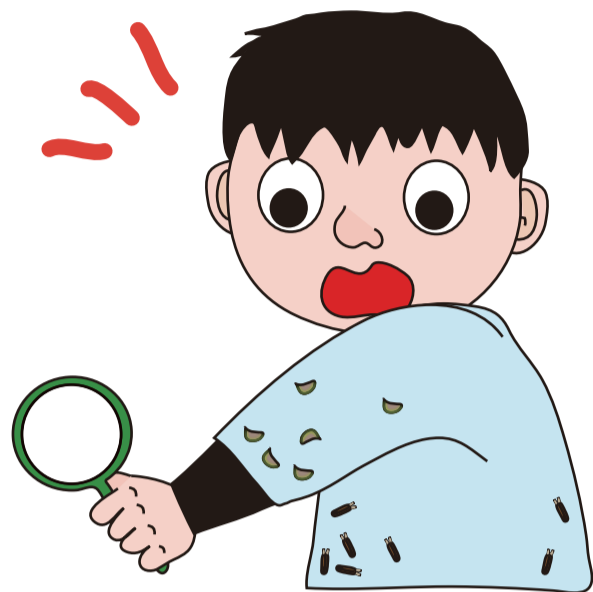


ちょっと谷戸沢

第5号
2014年9月

体にひっついいたら、離れない!?

谷戸沢処分場の草原を歩くと、洋服の裾や靴ひもに虫のようなものがたくさんひっついてくることがあります。はらってもなかなか取れません。



これらは「ひっつきむし」などと呼ばれています。「え？虫!？」と思った方、ひっつきむしの正体は、植物のタネです。

植物は自由に移動することができません。そのため、タネを遠くへ運ぶために色々な手段を持っています。その中の一つに、人の服や動物の体に付着して運んでもらう「付着散布」という方法があります。

遠くへ運んでももらうために・・・



オナモミはかぎ針型

付着しやすくまた、取れにくいようにするために、ひっつきむしには様々な形があります。

例えば、ヌスビトハギやオナモミはトゲの先がかぎ針のように曲った形（かぎ針型）をしています。また、アメリカセンダングサはトゲが逆向き（逆さトゲ型）です。他にも、動物の毛などに挟まるヘアピン型やネバネバとした液体を出す粘液型などがあります。



かぎ針（フック）型

逆さトゲ型

粘液型

参考文献 監修 北側尚史 / 写真 伊藤ふくお / 文丸山健一郎 (2009年)
『フィールド版 ひっつき虫の図鑑』トンボ出版

ひっつきむしとタヌキ



体にひっつきむしがたくさん付いている

生き物の様子を知るために、自動撮影カメラを設置したところ、タヌキが撮影されました。

よく見ると、タヌキの顔や背中にたくさんのひっつきむしが付いています。このタヌキは草藪の中を歩いてきたに違いありません。こんなにたくさんつけて体が痒くはないのでしょうか・・・?

谷戸沢処分場に生えている植物には、このようにして運ばれた植物もたくさんあります。